

宗家相神浦 第16代当主 松浦丹後守親

まつうら たんごのかみ ちかし

1497年生まれ 1577年天正5年(9月23日)没 享年80歳

幼名:幸松丸(こうまつまるorこうしょうまる)

法名:玉林宗金(そうきん)

父親:宗家松浦15代当主「松浦丹後守 政(まつうらたんごのかみまさし)」

母親:小式資の娘「南殿(みなみどの)」



青

1497年(明応6年) 誕生

大智庵城にて父・宗家松浦15代当主「政(まさし)」と母・「南殿(みなみどの)」の間に宗家松浦16代目当主として生まれる

1498年(明応7年) 1歳(幸松丸) 人質にとられる

平戸の「弘定(ひろさだ)」に宗家松浦の居城大智庵城を攻められ一夜にして落城する
城主で父親である「政(まさし)」は討死し、幸松丸(1歳)は母とともに平戸の川内に幽閉される。
この戦いは1491年(延徳3年)に幸松丸の祖父「定(さだむ)」が有馬氏とともに平戸を攻めた
「箕坪城の戦」の報復でもあったといわれる。また政に城を追い出された山田兄弟の政へ対する逆臣という話もある。

1499年(明応8年) 家臣により救出される

翌年、親子で先祖の墓がある今福歳宮の祭礼に参拝したとき、宗家松浦の家臣である庄山と池田によって救出される。
その後、有田の唐船城で宗家16代当主として育てられ元服する。

年

1512年(永正9年) 15歳 相神浦に帰郷する。

1515年(永正12年) 18歳 正室を娶る。

大智庵城を攻めた平戸の「弘定」が没し、「興信(おきのぶ)」が跡目を継ぐ。
当時上松浦随一の武将であった岸岳城主の「波多下野守興(はた しもつけのかみこう)」の娘、「多見野(たみの)」を正室にむかえる。
その多見野の妹が平戸の「興信」の後室になり、「親」と「興信」は義兄弟となったため、その後しばらく平戸とは平穏な関係になる。

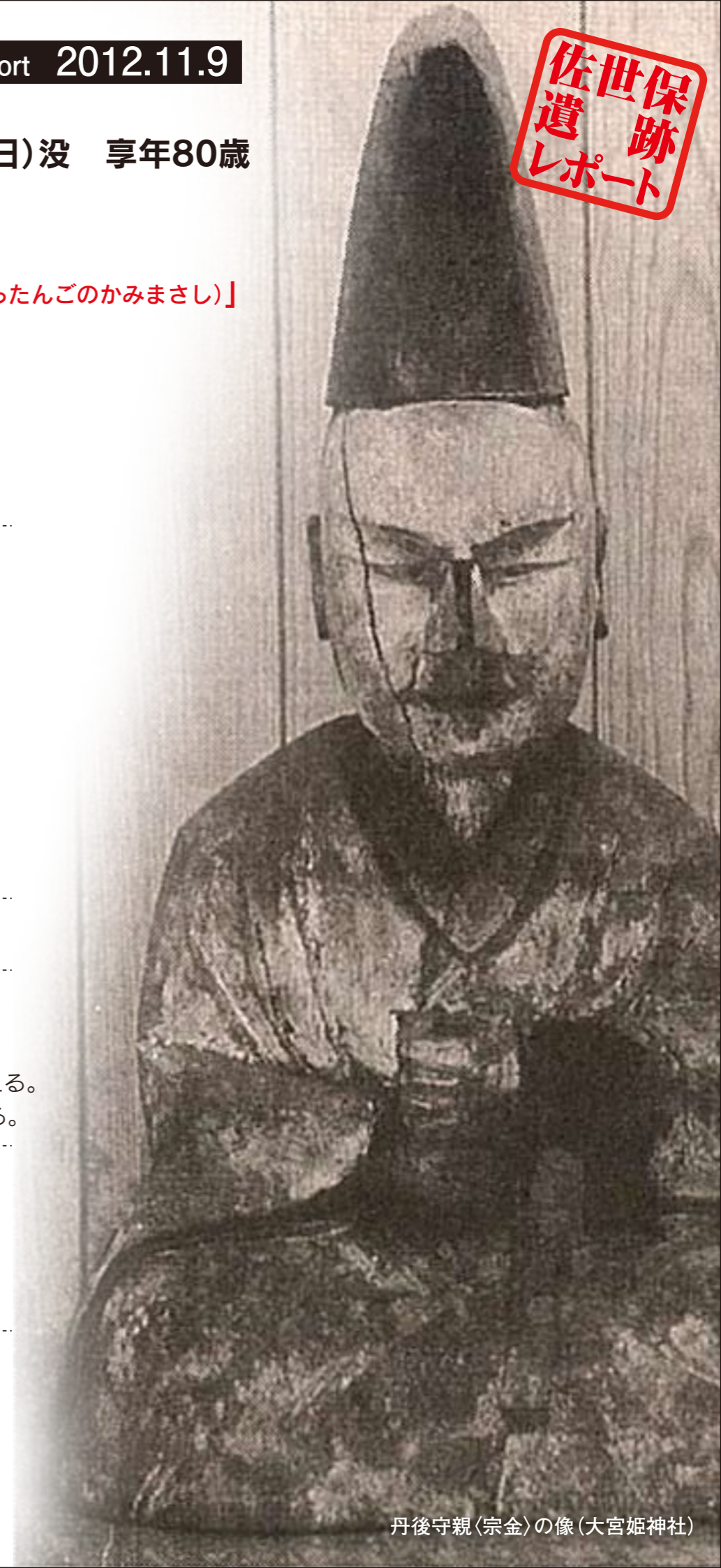
1530年(享禄3年) 33歳 相神浦・佐世保・有田・今福・鷹島の旧領を返還する

当時、母親「南殿」の弟である「小式資元(しょうにすけもと)」は肥前国守護であり、その斡旋により
室町幕府は平戸方に相神浦・佐世保・有田・今福・鷹島の旧領を宗家に返すように命ずる。
またこの頃「小式資元(しょうにすけもと)」の子「鎮(しげる)」を養子に迎え、お家の安泰を図っている。

期

1535年(天文4年) 38歳 飯盛城の完成

天然の要害の地である飯盛山の南東麓に城を築きこの年入城する。
同年、後ろ盾としていた叔父の「小式資元」が北九州の「大内義隆(おおうちよしたか)」との和睦にあたり領地を取り上げられる
という謀略にはまり、その翌年自害してしまう事件がおきる。



丹後守親(宗金)の像(大宮姫神社)

熟

1542年(天文11年) 45歳 1回目の飯盛城の戦い

平戸の興信が卒すと、平戸との友好関係もなくなり、跡を継いだ興信の子「隆信(たかのぶ)」が飯盛城を攻める。飯盛城は落ちずに平戸の軍勢が大きな痛手を被る。前代未聞の丹州党の勝利といわれる。

この頃より2回目の飯盛城の戦いが行われる1563年までの約20年間に宗家松浦の全盛時代であったと考えられる。この時期に家の安泰を祈って奉納した仏像や石造物が多く残されており、造りも精巧なものばかりで当時の権勢が偲ばれる。

【この時期に建造された主な石造・仏像】

- 1548年(天文17年)叔父にあたる小式資元の供養塔
- 1550年(天文19年)南殿と呼ばれた母(法名:華山崇春)の墓碑
- 1553年(天文22年)自身と妻の逆修碑(ぎやくしゅうひ)
- 1553年(天文22年)長源寺観音堂の地蔵菩薩像(現在は上本山の地蔵堂にある)
- 1558年(弘治4年)井手口観音堂の観音像
- 1558年(永禄元年)小式氏からの養子「鎮(しげる)」の女(法名:芳岩照英)の墓石



竹林寺跡地にある宗金と妻・多美野の供養塔。飯盛山を望む丘の上にたてられている。↑

年

1560年(永禄3年) 63歳 有馬晴純の五男「盛(さこう)」を養子に迎える

1559(永禄2年)後ろ盾としていた小式氏が龍造寺氏に攻められ滅亡すると、小式氏からの養子「鎮(しげる)」を菟田に幽閉する。1560(永禄3年)当時高来・彼杵・杵島・藤津の四郡を治める大名であった有馬氏を次の後ろ盾として、自身の一人娘に有馬晴純(ありま はるすみ)の五男「盛(さこう)」を養子として迎える。ちなみにキリシタン大名として有名な「大村純忠(おおむらすみただ)」は「盛(さこう)」の実兄。



「井手口観音堂の観音像」



「長源寺の地蔵菩薩像」



「宗金親供養塔(矢峰)」

1563年(永禄6年) 66歳 2回目の飯盛城の戦い

後ろ盾としていた有馬氏が龍造寺氏と戦って敗れた1563年(永禄6年)平戸松浦が再び飯盛城を攻める。「相神浦二年の役」ともいわれる長期に渡る戦いで、「半坂の戦い」や「蜂ノ久砦攻め」など、各地で激しい激戦が繰り広げられた。有馬氏からの援助もなく、徐々に苦しい籠城戦となる。更に後藤氏とひそかに密約した平戸松浦氏は早岐・針尾地方を制圧し、飯盛城は完全に孤立してしまう。遂に城の前にまで押し寄せた平戸軍は、鉄砲を使った激しい攻撃を仕掛けるが城の守りは堅く、兵糧攻めを行う。

期

1565年(永禄8年) 68歳 事実上の降伏

長期に渡る兵糧攻めに和睦を決意する。平戸の松浦隆信の三男「九郎(くろう)」を養子とし自身の名前丹後守親を九郎に譲り、自身は隠居し、「宗金(そうきん)」と名乗る。武力では屈しなかったものの事実上の降伏であり、宗家の家柄は守ったが、平戸松浦氏の配下となる。

この時期に戦いの戦死者を供養するための仏像や石造物が多く造られる。またこれらの仏像や石造物の造作には平戸の「隆信」が関わっており、平戸から養子としてきた九郎の微妙な立場を後押しするための隆信の計らいもあったと思われる。

【この時期に建造された主な石造・仏像】

- 1568年(永禄11年)寿福寺の地蔵菩薩
- 1569年(永禄12年)今宮神社の神像



「半坂古戦場」



「寿福寺の地蔵菩薩」

晩

1571年(元龜2年) 74歳 18代目当主の誕生

平戸から養子としてやってきた17代当主の九郎親(くろうちかし)に跡継ぎが生まれる。
宗金からみれば孫にあたり宗金の幼名と同じ、「幸松丸(のちの丹後守定)」と命名し、宗家18代目当主として大切に育てる。

1572年(元龜3年) 75歳 相当ヶ原の戦い

もともと有馬からの養子で17代当主となるはずであった唐船城の「盛(さかり)」が飯盛城を奪還すべく西有田から攻めてくる。旧臣である「山本右京(やまもとうきょう)」の注進により、事態を知った宗金と九郎親は柚木の相当ヶ原で迎え撃ち、激しい激闘の末、西有田軍を撃退する。

1574年(天正2年) 77歳 17代当主九郎親が家臣と刺し違える

九郎親が家臣の「東甚助時忠(ひがしじんすけときさだ)」と刺し違え死亡する事件が起こる。宗家に代々使える家臣の中には平戸から来た九郎親が跡を継ぐことに我慢がならない者がいたのである。
またこの事件には九郎親の卑劣なはかりごとに耐えかねた東が討ち死に覚悟で主君を刺し殺したとの逸話もある。

跡取りがいるとはいえ18代目の幸松丸はまだ4歳、いまだ乱世のなか、家中の不安はいいしれないものがあつた。

1576年(天正4年) 79歳 大宮姫神社の遷宮を行い仏像・神像を奉納する

宗家の行く末のため、孫の無事な成長とお家存亡の危機を念じ、飯盛城門前の相浦川河畔にあつた大宮古社を竹辺の地(現在の大宮姫神社)に新築遷宮する計画を立て、1576年10月に落成遷宮し、翌11月には神像も治められた。

1577年(天正5年) 80歳 8月 飯盛権現の神像を造る

飯盛権現に2つの像を造って幸松丸(定)の福を祈る。死去する一月前のことであつた。

1577年(天正5年) 80歳 9月23日 死去

天正5年9月17日に妻の多美野が他界する。その7日後の9月23日、「宗金親」は激動の人生に幕を閉じる。
1歳で父を亡くし、幼き頃から宗家の跡継ぎの宿命を背負ってきた人生だった。
最後まで幼い幸松丸の行く末を案じ続けた宗金の脳裏には、もしかしたら自身の幼少時代と重ね合わせていたのかもしれない。

宗金の墓は近年までどこにあるのか分からなかった、中里村に葬るとしてあるのみではっきりとした場所が分かっていなかった。平成元年に東漸寺の住職は「昔は東漸寺の寺領であつたと思われる場所に大きな塚があり、その上に立派な石碑があつた。それを土地の人は『おとさま』と呼んで丁重にお参りをしていた。戦後に市営住宅ができ、別の場所に移されたが今もお参りをしている『おとさま』は『お殿さま』であると思われ、これが親公の墓ではないだろうか」とのこと、その後の調査により田舎廻りに記してある墓の図と一致していることが分かり、この大きな笠をかぶった造りの立派な塔が宗金の墓であることが分かった。



「大宮姫神社の神像(宗金像)」



「大宮姫神社の神像(幸松丸[丹後守定]像)」



「宗金が飯盛権現に奉納したと思われる幸松丸(定)の神像(現在は洪徳寺にある)」

「宗金親の墓(東漸寺)」
遠くには飯盛城があつた飯盛山が見える

年

期